

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第2回高田区地域協議会分科会（第1分科会）

2 議題

（1）協議（公開・非公開の別）

高田区の活性化について（公開）

3 開催日時

令和4年5月9日（月）午後7時40分から午後8時43分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：小川善司、小嶋清介、高野恒男（副会長）、富田晃、本城文夫（会長）、
松倉康雄、村田秀夫（欠席：浦壁澄子、宮崎陽）

・事務局：南部まちづくりセンター 滝澤センター長、難波主任

8 発言の内容（主な発言の要旨）

—次第3 協議 高田区の活性化について—

【富田座長】

第2回第1分科会を開会する。

皆さんの方からアイデアがあれば発言いただきたい。

【本城会長】

先日、各委員に送付された市の地域自治推進に関するプロジェクト等の資料を見ると、地域独自の予算の制度、元気事業等、市の方針が具体的に出てきている。元気事業については、例えば地域活動支援事業において、市民団体が高田区の活性化

のために継続して実施してきたものがある。そこからある程度絞り込んで、今までの課題と結合させてやれないものかと思う。

例えば、一つ目は高田区の雁木の景観資産としての保存活動。これは高田区では大きな課題としてある。

二つ目は青田川の環境保全活動。これも高田区の市街地の大きな課題の一つである。

三つ目は寺町のまちづくり。

それから、高田城址公園を中心とする公園の整備。他には高田区のミニ観光回遊。

それらを絞り込んでいき、高田区の活性化につなげ、そこに地域の若者がどう参画するか、というようなまとめ方を分科会としてやり、一定の方向性を出せば、元気事業のテーマになるのではないか。多くのお金をかけてきた事業が継続してある。この中からいくつか絞っていけば、自主的審議事項にもっていけるテーマにできるのではないか。

この第1分科会の進む方向性については、地域活動支援事業がなくなる中、高田区の元気事業は何をやるのか、となるのではないか。日程としては、7月から9月にかけて地域協議会が住民組織や地域団体と意見交換をしてまとめる必要がある。そして、令和5年度の予算に挙げて、事業を実施できればと思う。今年度で地域活動支援事業が終了し、来年度から高田区の地域活性化の事業が止まってしまう状況にある。それを考えると、高田の雁木の景観資産としての取組など、何をしていくのか。そういう風に整理して、いくつか絞り込んで、若者の参加も含めて考えていった方がよいのではないか。これらは第2分科会も含めて検討していくのがよいと思う。検討を進めていかないと令和5年度予算要求に間に合わなくなる。

【富田座長】

現場で話を聞くと、団体の中には、後継者となる若者がおらず、困っているところもある。

【本城会長】

そういったこともある。また、観桜会など観光についてもいろいろな意見があるだろう。高田城址公園のことも含めて、高田区の課題だ。元気事業につなげるためにこういったテーマに絞りこむかが重要だ。

【松倉委員】

分科会はここで一区切りをつけて、軌道修正をしないといけないのではないかと。

【本城会長】

今年度で地域活動支援事業が終了する中、高田区での地域活動が停滞しないように検討していく必要がある。

【小川副座長】

安楽さん等、若者のお話を聞いて分かったことがある。今、高田区にあるものは古いかも。しかし、今あるものに新たな価値を見出す。気づかない人が多い。青田川に価値を見出す。高田城址公園に価値を見出す。雁木に価値を見出す。瞽女という文化に価値を見出す。高田区にはたくさんある。安楽さんや打田さんのように、若者が気づいて活動し、磨いている事例がある。その方向でいけば素晴らしいものになる。

【本城会長】

そういうことも含めてまとめる。関係するところと意見交換をする。地域協議会と地域が一緒になって提案する。

【富田座長】

今までの第1分科会の活動により、高田区の活性化という観点から、色々な分野でモチベーションの高い若者がおり、地域参画していることがわかった。

については、第1分科会で協議してきた「若者の地域参画」は一区切りとし、まとめを作成したいと思う。

今後は、市の地域自治推進プロジェクト等で依頼のあった件について話し合うこととする。

- ・閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。